

# 六本木クロッシング2025展： 時間は過ぎ去る わたしたちは永遠

2025年12月3日(水)ー2026年3月29日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

## いま、現代アートからみる日本とは

森美術館は、2025年12月3日(水) から2026年3月29日(日) まで、「六本木クロッシング2025展：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」を開催します。

「六本木クロッシング」は、森美術館が3年に一度、日本の現代アートシーンを総覧する定点観測的な展覧会として、2004年以来、共同キュレーション形式で開催してきたシリーズ展です。第8回目となる今回は、森美術館のキュレーターに加えて国際的に活動するアジアのゲストキュレーター2名を迎え、「時間」をテーマに、国籍を問わず日本で活動する、もしくは日本にルーツがあり海外で活動するアーティスト全21組を紹介します。

出展作品には、絵画、彫刻、映像はもとより、工芸、手芸やZINE、さらにはコミュニティプロジェクトも含まれます。建築、デザインの領域を越え、国際的に高い注目を集めるA.A.Murakamiの没入型インスタレーション。海外のメゾンとのコラボレーションでも話題の桑田卓郎の圧倒的な造形美を放つ色彩鮮やかな大型の陶芸作品。自身の声や環境音を用いて作品を制作し、舞台作品なども手掛ける細井美裕の新作サウンド・ピース。近年、国内外で高い評価を得ている沖潤子の、繊細な手仕事から生み出される抽象画のような刺繍作品など、多様で多彩な表現が一堂に会します。

本展の副題「時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」が示すのは時間の貴さと儚さ。各作品に現れるさまざまな時間の交差をとおして、日本のアートを多角的に見つめ直します。



A.A.Murakami 《ニュー・スプリング》 2017年 アルミニウム、ロボティクス、泡、霧、香り 700×700×700 cm 展示風景：「Studio Swine x COS, New Spring」ミラノサローネ2017

## プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、日比、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## 「時間」というテーマについて

今回の「六本木クロッシング」は、時間を多角的に解釈することで見えてくる、異なる時間の交差に注目しながら、現代アートをとおしている「日本」について考察します。

私たちは、現代社会が課す圧倒的なスピードと時間の抑圧から逃れることができるのでしょうか？ 技術革新と効率を重視する現代社会では、儚い快楽や短期的な成果が優先され、人々はより速く生きることを求められています。一方で、アートは「時間」が経験の深さや感覚によって変化し、実に多様なかたちで存在することを教えてくれます。私的な時間、他者との時間、動植物の時間、地質学的な時間、そして地政学・社会の文脈に埋め込まれた時間。本展は、作品に現れる複数の時間の交差をとおして、世界や社会の複雑さに対する多角的な解釈を促します。

「時間」というテーマは抽象的で、現代社会の諸問題から距離を置いているようにも見えます。世界各地で勃発する戦争、人種差別や経済格差、人権問題といった深刻な課題が顕在化し、分断が進む社会のなかでは、共通の問題意識を持つことそのものが難しくなっているのも事実です。そのような状況下でも、アートは他者との共感や対話を生み出すきっかけになり得ると考えます。

今回の六本木クロッシングでは、国籍を問わず日本で活動する、もしくは日本にルーツがあり海外で活動するアーティストが出展します。「日本」という枠組みを、地域性や文化的背景、さらには地政学的な観点からも捉え直し、より広い視座からアプローチしようとする試みです。その上で、「時間」という普遍的なテーマを通して、文化的な差異を超えた深層に共通するものを見出そうとしています。

副題「時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」は、インドネシアを代表する現代詩人、サバルディ・ジョコ・ダモノの詩の一節からの引用です。この詩は、普遍的な存在である「時間」の貴さ、そしてその時間に囚われることで、私たちが「生きる」ことの本質を見失ってしまう危うさを語っています。過ぎ去ってしまう刹那の連続である人生において、今この瞬間こそに永遠が宿る。それは単なる人間の生の継続ではなく、むしろ記憶の持続や存在の意味、そして人間関係のあり方も含みます。この詩は、「物事の本質を感じ、考える」ことを促すアートの力と深く共鳴していると、私たちは考えました。本展を通じて、「日本」とは何かをあらためて考え、「今」という時間に宿るさまざまな生のあり方、そしてその永続性と向き合います。そのなかで、複雑化する現代社会を生き抜くための可能性を模索する場ともなるでしょう。

レオナルド・バルトロメウス(山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター)

キム・ヘジュ(シンガポール美術館シニア・キュレーター)

徳山拓一(森美術館キュレーター)

矢作 学(森美術館アソシエイト・キュレーター)

\*姓のアルファベット順

### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、日比、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## 出展アーティスト

\*姓のアルファベット順  
\*出展アーティストは変更となる可能性があります。

A.A.Murakami	2011年ロンドンにて結成、同地および東京拠点
ケリー・アカシ	1983年ロサンゼルス生まれ、同地在住
アメフラシ	2015年山形にて結成、同地拠点
荒木 悠	1985年山形生まれ、京都在住
ガーダー・アイダ・アイナーソン	1976年オスロ生まれ、東京在住
ひがれお	1995年沖縄生まれ、同地在住
廣 直高	1972年大阪生まれ、ロサンゼルス在住
細井美裕	1993年愛知生まれ、東京在住
木原 共	1994年京都生まれ、東京在住
金仁淑	1978年大阪生まれ、東京およびソウル在住
北澤 潤	1988年東京生まれ、インドネシア、ジョグジャカルタ在住
桑田卓郎	1981年広島生まれ、岐阜在住
宮田明日鹿	1985年愛知生まれ、三重在住
Multiple Spirits	2018年ウィーンにて結成、同地および東京拠点
沖 潤子	1963年埼玉生まれ、神奈川在住
庄司朝美	1988年福島生まれ、東京在住
シュシ・スライマン	1973年マレーシア、ムアル生まれ、同地および広島在住
和田礼治郎	1977年広島生まれ、ベルリン在住
マヤ・ワタナベ	1983年リマ生まれ、アムステルダム在住
キャリー・ヤマオカ	1957年ニューヨーク生まれ、同地在住
ズガ・コーサクとクリ・エイト	2009年兵庫にて結成、同地拠点



廣 直高 《無題(解剖学)》 2024年  
アクリル、グラフィイト、油性鉛筆、クレヨン、木  
243.8×213.4×5.7 cm  
Courtesy: Misako & Rosen, Tokyo  
撮影: 岡野 慶



沖 潤子 《甘い生活》 2022年  
綿、亜麻、絹  
55.0×35.5×9.8 cm  
Courtesy: KOSAKU KANECHIKA, Tokyo  
撮影: 木奥恵三



桑田卓郎 《無題》 2016年  
磁土、釉薬、顔料、鋼鉄、金、ラッカー  
288×135×130 cm

## プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、日比、伊原  
Tel: 070-4303-7234(幡井)、070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

## 開催概要

**展覧会名:** 六本木クロッシング2025展: 時間は過ぎ去る わたしたちは永遠

**主催:** 森美術館

**企画:** レオナルド・バルトロメウス(山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター)

キム・ヘジュ(シンガポール美術館シニア・キュレーター)

徳山拓一(森美術館キュレーター)

矢作 学(森美術館アソシエイト・キュレーター)

**会期:** 2025年12月3日(水)–2026年3月29日(日)

**会場:** 森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

**開館時間:** 10:00–22:00(火曜日のみ17:00まで) \*入館は閉館時間の30分前まで \*会期中無休

\*ただし、12月30日(火)は22:00まで

### 入館料:

	[ 平日 ]		[ 土・日・休日 ]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円
学生(高校・大学生)	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
中学生以下	無料			
シニア(65歳以上)	1,700円	1,500円	1,900円	1,700円

\* 表示料金は消費税込

\* 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。日時指定券の販売開始日は決まり次第ウェブサイトでお知らせします。

\* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。

\* 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

\* 2025年12月29日(月)–2026年1月2日(金)は、[土・日・休日]料金となります。

**一般のお問い合わせ:** Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/roppongicrossing2025/>

### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、日比、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、070-4303-7219(日比) E-mail: [mam-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:mam-pr@kyodo-pr.co.jp)

## 本展のみどころ

### 1. 「時間」をテーマにした多層的な表現

効率性や短期的な成果を重視する現代社会において、時間はしばしば消費対象として扱われますが、アートはその在り方を問い直します。**A.A.Murakami**による大型インスタレーションは、霧や光といった流動的な要素を用い、観客を物理的にも心理的にも包み込む体験を生み出します。そこでは、時間がゆっくりと拡張され、「今ここ」に深く没入する感覚が得られます。**和田礼治郎**のブランデーを複層ガラスに封入した立体作品では、果実の発酵と蒸留のプロセスを経た液体を作品に取り込むことで「生と死」や「時間」などの形而上学的なテーマと向き合います。ペルー人でアムステルダムを拠点に活動する**マヤ・ワタナベ**は、考古学的なアプローチから人類史を超える時間の概念を示唆する映像インスタレーションをつくります。そして、特定の場所に集う人々の声や環境音を用いた**細井美裕**のサウンド・ピースでは、個人や社会、自然や記憶といったさまざまなスケールの時間が交差します。



和田礼治郎  
《スカーレット・ポータル》  
2020年  
ワイン、強化ガラス、真鍮、ステンレススチール、大理石  
180 × 220 × 60 cm  
展示風景：「Embraced Void」ダニエル・マルツォーナ（ベルリン）、2020年  
撮影：Nick Ash

### 2. 「記憶」の集積、「技術」の再定義

**沖潤子**による繊細な刺繍作品は、手仕事や布に宿る家族の記憶を辿りながら、個人と社会、過去と現在を結び直します。また、**桑田卓郎**は、日本の陶芸の技術と歴史を大胆に引用しつつ、鮮やかな色彩や奇抜なフォルムで時代を超越する造形美を実現しています。さらに、工芸と現代美術というカテゴリーに対する批評性は、「日本的なるもの」への認識を更新します。日本軍のジャワ侵攻で使用され、その後インドネシア軍が独立戦争のために再利用した戦闘機をインドネシアの凧職人たちと蘇らせる**北澤潤**のプロジェクトは、歴史の痕跡をダイナミックに描き出しながら、両国をつなぐことの葛藤と可能性を投げかけます。



北澤潤  
《フラジャイル・ギフト：隼の凧》  
2024年  
竹、藤、印刷された布、紐  
210 × 3,870 × 1,090 cm  
展示風景：ARTJOG 2024、ジョグジャ国立美術館（インドネシア、ジョグジャカルタ）  
撮影：Aditya Putra Nurfaizi

**プレスリリース** お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、日比、伊原  
Tel: 070-4303-7234(幡井)、070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

### 3. グローバルなアートシーンのなかでの「日本」

「日本のアート」がいまや国籍や地理的な境界に限定されないことを本展は明示します。**ケリー・アカシ**はブロンズやガラスを用いた彫刻作品を通して、身体や記憶、刹那と永遠性といったテーマを詩的に表現し、**キャリー・ヤマオカ**は歴史的記憶とその消失、また風景を巡る一連の作品を創り出すためにアナログ写真の手法を用います。ともに日系アメリカ人であるアカシとヤマオカの作品には、国境や世代を越えて共鳴する日本的な抒情性を見出すことができます。**シュシ・スライマン**はマレーシア人アーティストでありながら、長年にわたり広島県尾道市で土地の歴史やコミュニティに根差した活動を続けています。多様な視点による記憶、移動、越境といったテーマが見て取れるこれらの作品は、日本の社会と文化を様々な形で物語ります。



ケリー・アカシ  
《モニュメント(再生)》  
2024-2025年  
パーナーワークで制作されたホウケイ酸ガラス、コールドテン鋼  
66 × 43.2 × 43.2 cm  
Courtesy: Lisson Gallery  
撮影: Dawn Blackman

#### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、日比、伊原  
Tel: 070-4303-7234(幡井)、070-4303-7219(日比) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp